

杉並区 子どもワークショップ



もっといい杉並を  
一緒に考えよう



実施報告書

令和6年4月

杉並区



# 1. 事業概要

## (1) 実施目的

- 杉並区基本構想の子ども分野に掲げた目標「すべての子どもが、自分らしく生きていくことができるまち」の実現に向けて、「（仮称）杉並区子どもの権利に関する条例」の制定を見据えた取組を進めるに当たり、子どもからの意見を幅広く聴くことを目的として、こども基本法第11条に基づく意見表明の機会の1つとして当ワークショップを実施しました。
- 今回のワークショップでは、前回実施した「中高校生世代ワークショップ」（令和5年8月26日）より年代を広げ、小学4年生から高校生世代を対象としました。



## (2) 概要

回	日時	内容	場所	参加人数
第1回	令和5年11月19日(日) 13時30分～16時30分	子どもの権利について ゆう杉並見学等	児童青少年センター (ゆう杉並) 集会室	9人
第2回	令和5年12月16日(土) 14時～17時	区内にある子どもの居場所・あったらいいな と思う居場所について (個人ワーク、グループワーク)	杉並区役所西棟6階 第5・6会議室	8人
第3回	令和6年3月3日(日) 13時30分～16時30分	すごろくづくり	杉並区役所中棟6階 第4会議室	8人
リハーサル	令和6年3月24日(日) 9時30分～12時30分	まとめ発表練習	杉並区役所中棟6階 第4会議室	9人
第4回	令和6年3月30日(土) 9時30分～12時30分	まとめ発表 (区長・審議会委員)	杉並区役所中棟6階 第4会議室	9人

◆ 参加者人数：計9名（内訳は下記のとおり）

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1 世代	高2 世代	高3 世代	計
参加者	2	0	1	0	2	3	0	0	1	9

※学年は令和6年3月現在

- ◆ 講師・ファシリテーター： 東京経済大学教授 野村武司先生（のむさん）  
上智大学教授 新藤こずえ先生（こずこず）  
※本報告書では、ワークショップで使用したニックネームで記載しています。

# 2.

## 第1回 子どもの権利について・ゆう杉並見学等

### (1) 概要

- ◆ 第1回は児童青少年センター（ゆう杉並）で、施設の見学や講義を通じて「子どもの権利」について学びました。

回	日時	場所	参加人数
第1回	令和5年11月19日(日) 13時30分～16時30分	児童青少年センター (ゆう杉並) 集会室	9人

### ◆ 参加者内訳

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1 世代	高2 世代	高3 世代	計
参加者	2	0	1	0	2	3	0	0	1	9

※学年は令和6年3月現在

- ◆ 講師・ファシリテーター：東京経済大学教授 野村武司先生（のむさん）

### ◆ 進行

- ① 受付・名札作成
- ② 挨拶とルール説明
- ③ アイスブレイク
- ④ 児童青少年センター（ゆう杉並）の見学
- ⑤ 講義「子どもの権利について考えてみよう」
- ⑥ みんなで一緒に「なんでやねん」



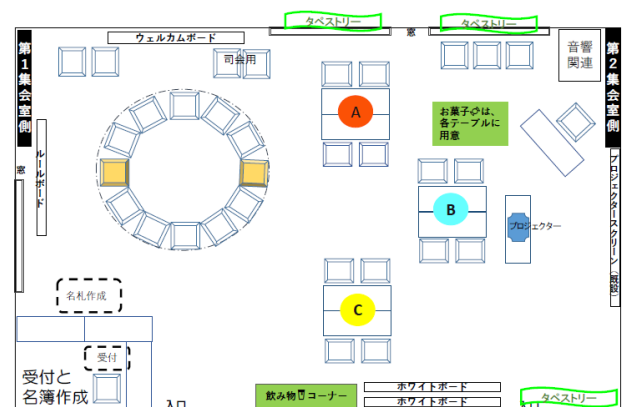
### ◆ レイアウト

会場を主に2つのスペースに分け、進行に合わせて使用しました。

進行①～④迎え入れからゆう杉並の説明まではサークル状の席を使用し、ゆう杉並見学の後、⑤のむさんの講義からは3グループにわかれて、ワークを行いました。

各テーブルには、お菓子やワークで使う文房具を用意しました。

飲み物コーナーでは自由に飲み物をとれるようにしました。



### ◆ 班分け方法

3色の名札の台紙を3枚ずつ用意しておき、迎え入れの際に子どもたちに好きな色の台紙で名札を作ってもらいました。施設見学から戻った後、種明かしをして、名札の台紙の色ごとにグループにわかれしました。



## (1) 当日の流れ

## ①受付・名札作成

- 受付後、自分が呼ばれたい名前で名札を作成しました。講師や事務局を含め、ワークショップ中は名札の名前で呼び合いました。
- サークル形式の席に座り、開始までの間、おしゃべりをしながら待ちました。初対面で緊張感がある中、児童青少年センター事業係長の小田係長（かかりちょー）を中心に、ゆう杉並に来たことがあるかなど、話しをすることで徐々にリラックスした雰囲気となりました。



参加メンバーが集合！

## ②挨拶とルール説明

ワークショップ開始！

- 開会挨拶、ワークショップの趣旨説明
- ワークショップでのルール確認
  - ・ここでは何を話しても間違いではありません
  - ・言いたくないことは無理に言わなくてOK
  - ・ここで聞いたこと（〇〇さんがこんなことを言ってたよ！）は秘密にしてね（終わったあと、こんなことをやったよ！はどんどん話してね）

ワークショップに共通するルールとして、すべての回でルールボードを会場内に貼りだしました。

- 全体司会は職員のボビーが務めました
- 講師紹介

今回のワークショップでは、子どもの権利擁護審議会会長である東京経済大学教授、野村武司先生（のむさん）に講師を務めていただきました。



アイスブレイクは「後出し負けじゃんけん」

## ③アイスブレイク

- アイスブレイクとして「後出し負けじゃんけん」をしました。「じゃんけん、ぽん」とのむさんが出した手に、「ぽん」と後出しをして、負ける手を出したら「勝ち」というルールで、頭と体を使って全員で盛り上がりました。



ゆう杉並の施設見学

## ④児童青少年センター（ゆう杉並）の見学

- ゆう杉並の設置には当時の子どもたちの意見が取り入れられたことや、子どもたちの意見を尊重した運営について、事業係かかりちょーから説明がありました。
- その後、実際にゆう杉並の施設内を見学し、スタジオや体育室などの各部屋でできることの説明や、ゆう杉並の利用ルールや企画などは、子どもたちが決めているという話を聞きました。



ホールにはボルダリングの壁があります！



## ⑤講義「子どもの権利について考えてみよう」

- 施設見学終了後、名札の台紙の色でグループに分かれ、野村武司先生（のむさん）の講義を受けました。
- 「権利とは生まれたときから、当たり前持っているもの」という説明を聞き、自分の身の周りの「生まれたときから、当たり前持っているもの」を個人ワークで考えて紙に書き出し、全体に向けて発表しました。
- 次に、子どもの権利の基本的な柱となる4つの権利※には何があるかを、スライドを見ながらみんなで考えました。その4つの権利とは「生きる」「育つ」「参加する」「守られる」であることを学びました。
- 最後に、個人ワークで書いた「生まれたときから、当たり前持っているもの」が、基本的な4つの権利の柱のどれに当てはまるのか、グループごとに分類しながら模造紙に貼っていきました。貼り終わった後は、他のグループで出た意見を見て周り、さらに考えを追加しました。[参照➡P.5・6]

※4つの権利：ワークショップ開催時には、ユニセフは「子どもの権利条約に定められている権利は大きく分けると4つ（生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利）」との説明をしておりましたが、現在はその説明を使用しておりません。



のむさんによる講義



「生まれたときから、当たり前持っているもの」って？

## ⑥みんなで一緒に「なんでやねん！」

- ワークショップの最後には、グループごとに「なんでやねん！すごろく」で遊びました。

★「なんでやねんすごろく」とは、子どもの権利条約を知るために、関西の子どもたちが作ったすごろくで、子どもたちの日常の中の「なんでやねん！」が詰まったゲームです。

- サイコロを振り、すごろくの「なんでやねん！」のマスに止まると「なんでやねん！カード」を1枚引き、読み上げます。「なんでやねん！カード」には、「子どもには食べさせないおいしいお菓子を、大人だけ夜に食べている」など、日常的に「あるある」と感じる事が書かれています。読み上げた後は、全員で「なんでやねん！」と突っ込み、4つの権利シートの中でどこに権利にあてはまるのかを考えて置きました。
- そのほか、権利条約を読み上げるとキラキラの石がもらえるマスや、「早口言葉や歌を歌う」などの指令のマスもあり、楽しみながら子どもの権利と日常を関連づけて考えることができるすごろくで、盛り上がりました。
- 「なんでやねんすごろく」にあったように、日頃の生活の中で「なんでやねん！」と感じていることを1つ書いて、持って来ることを第2回に向けた事前課題としました。



カードを読み上げたら、みんなで「なんでやねん！」



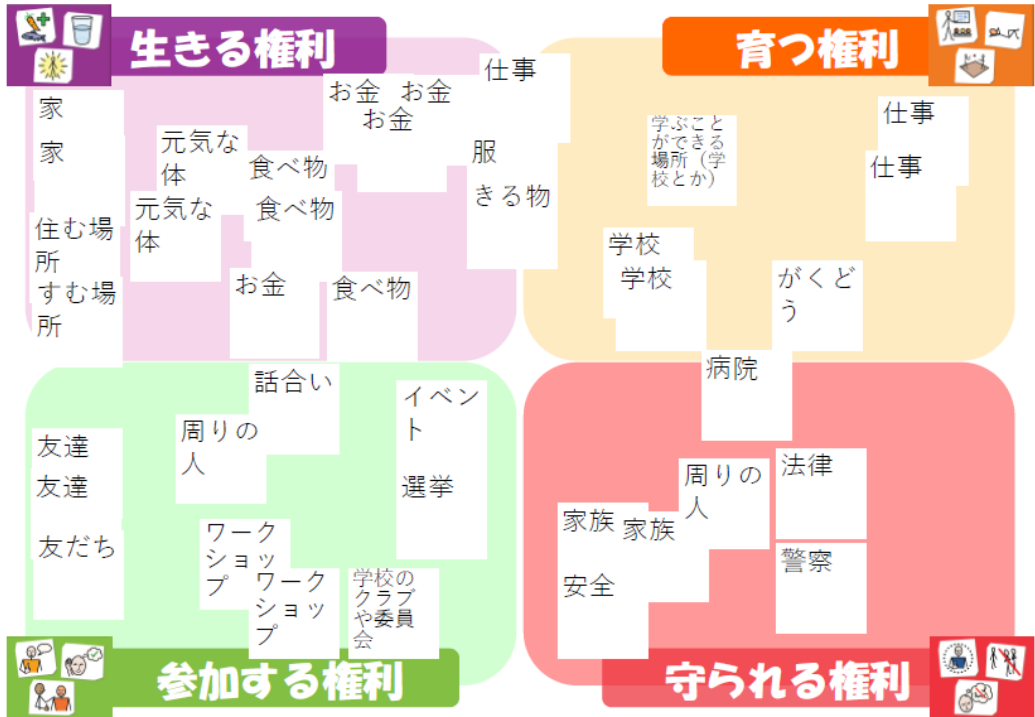
「なんでやねんすごろく」で盛り上がりました！



# 2.

## 第1回 子どもの権利について・ゆう杉並見学等

C班



書いたものがどの権利にあてはまるか考えて貼りました！

完成！



他のグループで出た意見を見て周りました

# 3.

## 第2回 区内にある子どもの居場所・あったらいいなと思う居場所について

### (1) 概要

- ◆ 第2回は杉並区役所第5・6会議室で、8名の子どもたちが講義やグループワークを通じて「子どもの居場所」について学びました。

回	日時	場所	参加人数
第2回	令和5年12月16日(土) 14時～17時	杉並区役所西棟6階 第5・6会議室	8人

### ◆ 参加者内訳

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1 世代	高2 世代	高3 世代	計
参加者	2	0	1	0	2	2	0	0	1	8

※学年は令和6年3月現在

- ◆ 講師・ファシリテーター：東京経済大学教授 野村武司先生（のむさん）

### ◆ 進行

- ① アイスブレイク・班分け
- ② 講義「子どもの居場所」について考える
- ③ ワーク1「ほっとできる居場所」
- ④ ワーク2 家や学校の「なんでやねん」、「あるある」

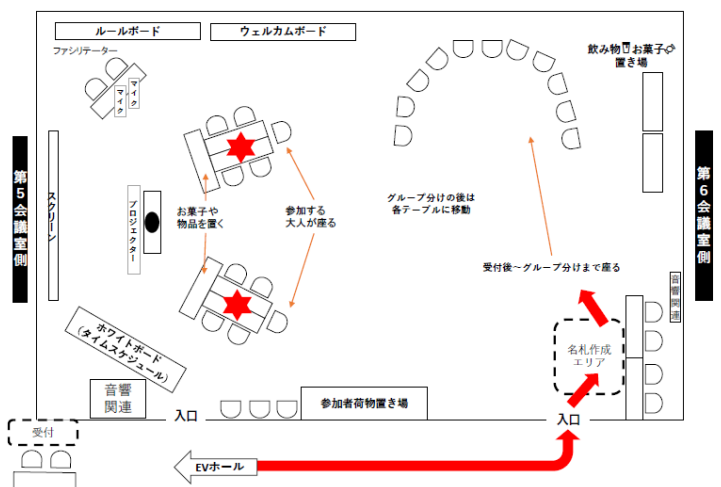
### ◆ レイアウト

会場を主に2つのスペースに分け、進行に合わせて使用しました。

迎え入れ、アイスブレイクの際には半サークル状の席に座り、グループワークの際には会場前方（左側）の席を使用しました。

各テーブルには、お菓子やワークで使う文房具を用意しました。

飲み物コーナーでは自由に飲み物をとれるようにしました。



### ◆ 班分け方法

欠席者が1名いたため、4人ずつの2グループにわかれしました。小学生・高校生と中学生にわかれて、あみだくじをしました。あみだくじの線を自由に書き込みました。





## (2) 当日の流れ

## ①アイスブレイク・班分け

- 前回盛り上がった「後出し負けじゃんけん」をした後は、事前課題として考えてきた「日頃の生活の中で感じる「なんでやねん！」と思うこと」を発表しました。読み終わる度にみんなで「なんでやねん！」と突っ込みを入れました。その後、小学生・高校生と中学生に分かれてあみだくじで班を決めました。細かい波線や斜め線などの線を自由に書き込み、のむさんが1本ずつ辿っていく様子を見守りました。



定番の「後出し負けじゃんけん」

## ②講義「子どもの居場所」について考える

- あみだくじで決まった2グループに分かれて、のむさんの講義「『子どもの居場所』について考える」を聞きました。
- 居場所とは、「子どもが自分らしくいられるために必要な場所」、「ほっとできる場所」であるということ学びました。



「子どもの居場所」について講義を受けました

## ③ワーク1 「ほっとできる場所」

- ワーク1ではみんなの「ほっとできる場所」を出し合いました。
- はじめに個人で「ほっとできる場所」を絵で描きました。
- その後、なぜその場所が「ほっとできる場所」なのか理由を考えました。
- 個人ワークの後は、グループ内と全体で発表を行い、お互いの「ほっとする場所」を共有しました。  
[参照⇒P.9]



「ほっとする場所」ってどこだろう？

## ④ワーク2 家や学校の「なんでやねん」、「あるある」

- ワーク2では、ワーク1の「ほっとする場所」の発表で多かった「家」「学校」をテーマに、「変だな」ということ（「なんでやねん」）や「いいよね！」と思うこと（「あるある」）を考えて、自由に模造紙に書き出していきました。
- それぞれが書いた「なんでやねん」や「あるある」をグループ内で発表し、その後、それぞれのグループの「家」と「学校」の「なんでやねん」「あるある」をまとめて、全体で発表しました。
- いろいろと共感する点が多く、お互いの発表をうなずきながら聞いていました。  
[参照⇒P.9・10]



班で出た「あるある」「なんでやねん」を発表！

# 3.

## 第2回

### 区内にある子どもの居場所・ あったらいいなと思う居場所について

#### (3) グループで出た意見

#### ①ワーク1 「ほっとできる場所」


〔ほっとできる場所（理由）〕 抜粋




- ・ ベッド（安心して寝れる）
- ・ 学校（友達がいって話せる、遊べる）
- ・ お風呂（自由・安心）、図書館（好きな本が読める）
- ・ カフェ（静か、暖色系）
- ・ 羽田空港（好きな乗り物）



#### ②ワーク2 家や学校の「あるある!」、「なんでやねん!」

〔学校〕

※「あるある!」（いいこと）には  マークをつけています。

- ・ 「5分前行動!」と怒って、先生自身が遅れてくる。
- ・ 生徒にダメだと言ったことを先生がやる。
- ・ お知らせをロイロノートやチームスで伝えて自分で確認しろと言ってくる。
- ・ みんなかくれてゲームやってた。
- ・ 先生によって席替の方法が違う。
- ・ 校長の話が長い。
- ・ 先生と先生の情報交換不足。
- ・ トイレがきたない。
- ・ 女子にカーストがある。
- ・ 先生の怒る声がかすぎる。
- ・ 先生がそれは授業に関係ありませんと言う。
- ・ 毎日タブレット持って帰らされる。
- ・ 私立の〇号館が多すぎる。
- ・ 先生の好き嫌いがある。
- ・ 「静かになるまで〇分かかりました。」
- ・ 男子にはこわい、女子にはやさしい。
- ・ 男子の方がおこられやすい。
- ・ ほかに子にいいと言ったのに、自分たちにはだめ。
- ・ 先生が他の子を怒った後、先生がイライラして授業でもどなることがある。
- ・ 女子生徒にはやさしく接するが、男子生徒にはきびしい。（特に男の先生!）
- ・ 先生が友達や自分のことをバックハグしてきたり、さわってきたりする。
- ・ 友達がやさしい! 
- ・ 先生がダジャレを言って授業を盛り上げてくれる。 
- ・ 無理しないでね。あせらない。 
- ・ 朝来るの早すぎると注意される。
- ・ マンガ・ゲームは持ってこないでね。



# 3.

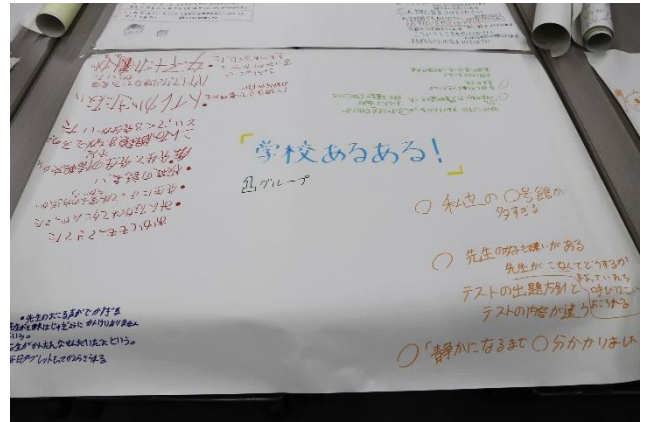
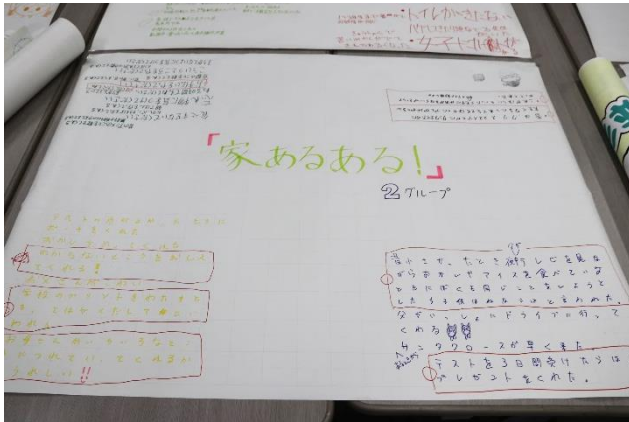
## 第2回

### 区内にある子どもの居場所・あったらいいなと思う居場所について

#### 〔家〕

※あるある！（いいこと）には 🍎 マークをつけています。

- 家族全員そろってご飯を食べることが少ない。
- 歳を重ねるごとに家族の時間が減る。
- 自分のことは自分でやる。
- 親はテレビを見るのに、ぼくはダメだと言われる。
- わからないところを教えてくれる！ 🍎
- 学校のプリントをわたすと、もっと早く出してと言われる。
- お母さんが色々なところに連れていってくれるから嬉しい。 🍎
- 昔小さかったとき、夜中に父がテレビを見ながらおかしやアイスを食べているときに、ぼくも同じことをしようとしたら子どもは寝なさいと言われた。
- テストを3日間受けたらほしいプレゼントをくれた。 🍎
- 昔はクリスマスイブとかにサンタが来てたのに、大きくなるにつれてとても早くにプレゼントがくるw
- これが欲しいと言ったら、自分のテスト勉強のモチベ（ーション）が上がるならいいよと言って買ってくれた。 🍎
- よくかんで食べてね。
- お手伝いをやってください。



机1面の大きな模造紙に自由に意見を書き出しました



# 4. 第3回 すごろくづくり

## (1) 概要

- ◆ 第3回は子どもの権利や杉並区の子どもの思いを伝えていくツールとして、「杉並区版なんでやねんすごろく」をつくりました。また、第4回（発表）に向けた準備として、ワークショップのまとめをしました。

回	日時	場所	参加人数
第3回	令和6年3月3日(日) 13時30分～16時30分	杉並区役所中棟6階 第4会議室	8人

## ◆参加者内訳

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1世代	高2世代	高3世代	計
参加者	2	0	0	0	2	3	0	0	1	8

※学年は令和6年3月現在

- ◆ 講師・ファシリテーター：東京経済大学教授 野村武司先生（のむさん）

## ◆進行

- ① アイスブレイク・班分け
- ② ワーク1 「変だな」「あるある」カードを作成
- ③ ワーク2 すごろくの名称を考える
- ④ ワーク3 すごろく盤を作成
- ⑤ ワーク4 第4回（発表）に向けた原稿づくり



## ◆レイアウト

会場を主に2つのスペースに分け、進行に合わせて使用しました。

会議室が広かったため、机で区切り、人数に合わせて適度な広さにしました。

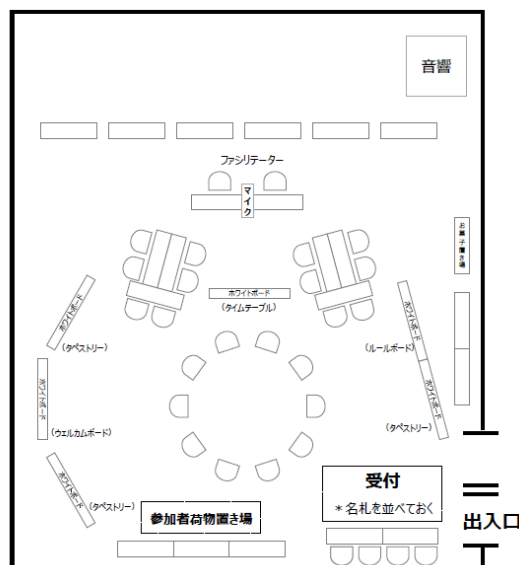
迎え入れ、アイスブレイクの際にはサークル状の席を使用し、グループワークの際には班ごとの座席に座りました。

すごろくづくりの作業スペースを確保するため、テーブルを3つつなげました。

各テーブルには、お菓子やワークで使う文房具を用意しました。

## ◆班分け方法

欠席者が1名いたため、4人ずつの2グループにわかれしました。小学生・高校生と中学生にわかれて、割りばしくじを引きました。くじの色で班にわかれしました。





# 4. 第3回 すごろくづくり

## (2) 当日の流れ

### ①アイスブレイク・班分け

- くじを引き、2つのグループにわかれて作業を行いました。

### ②ワーク1 「変だな」「あるある」カードを作成

- 第2回ワークショップで出た杉並区の居場所の変だなと思うこと「なんでやねん」と、いいこと「あるある」に、(参照➡P.9・10) 事前課題で考えてきた家や学校、普段の生活の中での「変だな」「いいよね!」と思うことを加えて手書きでカードを作成しました。
- それぞれが書いたカードを回収し、「学校」、「家」などのテーマごとに分けました。すごろくのルールどおり、4つの権利シートに分類し、どんなカードをつくったのか共有しました。  
[参照➡P.14]



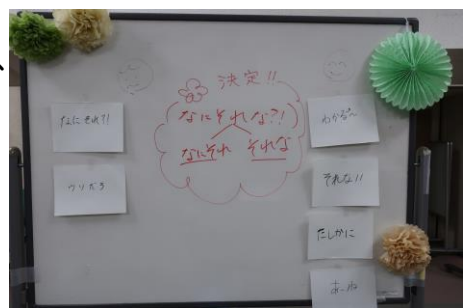
考えて来た「変だな」「あるある」をカードにしました



「内容が似ているカードもあるね!」

### ③ワーク2 すごろくの名称を考える

- 中央のホワイトボードを使って、みんなで意見を出し合いながらすごろくの名称考えました。「なにそれ?!」、「ウソだろ」といったマイナスを表現する言葉と、「わかる~」、「たしかに」、「それな!!」、「あーね」といった共感を示す言葉が案に出ました。
- 候補となった言葉をカードを読み上げた後の「OO!」という突っ込みとして、みんなで声を出して試してみました。
- 杉並区版のすごろくは、カードの中に変だなと思うこと、いいよねと思うことの両方が入っていることから、「なにそれ?!」という突っ込みと、「それな!」という共感の両方を入れた「なにそれな?!」という言葉が生まれました。
- 話し合いの結果、「なにそれな?!すごろく」という名称に決まりました。



候補を並べてすごろくの名前を考えました

### ④ワーク3 すごろく盤を作成

- 杉並区の地図となっているすごろく盤を東側、西側に分け、2グループで半分ずつ作成しました。「なにそれな?!」マスに好きなイラストを描いて色を付けたり、お題マス(例:杉並区のよいところを教えて!、最近あったチョット嫌なこと等)やアクションマス(例:TOPの人とピリの人が入れ替わる?!等)を考えて書き、すごろく盤に配置しました。
- 最後にそれぞれのグループで作成した盤を合わせて、すごろく盤が完成しました。



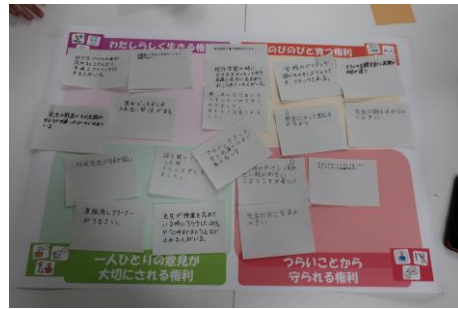
マスの配置を考え中

# 4. 第3回 すごろくづくり

## ⑤ワーク4 第4回（発表）に向けた原稿づくり

- 3月30日第4回（最終回）では、区長や子どもの権利擁護に関する審議会の委員に向けて、ワークショップに参加したきっかけや、これまでやってきたこと、大切にしたい思いなどをインタビュー形式で発表します。
- そのための準備として、これまでのワークショップで考えたことなどについて、個人ワークとしてワークシートを記入しました。
- ワークショップに参加したきっかけや参加して印象に残ったこと、すごろくづくりで工夫したことなどをふりかえり、次の発表に向けて、杉並区や区長、審議会委員に伝えたい・聞いてみたいことなどの意見をまとめました。

自分たちが作ったカードを4つの権利シートで分類してみました (P.12②)



「なにそれな?!」マスにイラストを描きました (P.12④)

みんなで話し合いながらマスを配置しました (P.12④)



すごろく盤が完成!! (P.12④)

# 4. 第3回 すごろくづくり

## (2) 「なにそれな?!すごろく」づくり

### ①ワーク1 「変だな」「あるある」のカードを作成

#### 〔児童館・公園・その他〕

- ・ レジャーシートをひいてたべるのはやめる。お店で食べる。
- ・ 公園のてつぼうがあつい
- ・ なぜ児童館などの施設の大人の人たちはあんなに優しいのか。
- ・ 児童館の代わりに放課後居場所ができたのに中学生になったら遊べなくなる。
- ・ 遊びに行った場所に自転車おきばがない。
- ・ 改札はどこにあるか迷います。たくさん改札があってどこにあるのかわかりません。
- ・ ボールをつかえる公園が家の近くに少ない。



#### 〔家〕

- ・ 家族によくいじられる
- ・ ごはんをつくってくれる
- ・ 親がおこずかい制にしたのに決めた日にくれないことがある。
- ・ 買ってほしいものを親に言ったら、なんでほしいのかプレゼンしろと言われた
- ・ スマホの中を勝手にチェックしてくる。
- ・ 風呂に入る順番でけんかが勃発する
- ・ 大人はご飯食べるときにスマホをさわるのに、子どもはさわったらおこられる
- ・ 母がいない時食べる物が無いから(食べる物が無いとさびしい。)
- ・ 宿題をしようとした時「宿題やりなさい」と言われる。
- ・ 「子供だから」「もう大人なんだから」って矛盾したことを言われる。





# 4. 第3回 すごろくづくり

## ①ワーク1 「変だな」「あるある」のカードを作成

### 〔学校〕

- テストでカンニングしていないのにカンニングしたと疑われた。
- 先生のおこる声大きい
- 黒板消しクリーナーがうるさい。
- 校外学習の時にスマホをかくしもって行き友達に先生に言われて怒られている人がいる。
- テストの出題方針と実際の内容が違う。
- 校長先生の話が長い
- 生徒をあてる時、真ん中の列か両端の列の3択しかない
- 教室移動のせいで5分休みがなくなる
- きょうせいできにみんなの前で発表させられる
- なぜ学校の先生は、自分が出来てないことを認めないで、意見を押しつけて、出来なかったら怒るのか？
- 学校が6時間もあるのにさらに宿題があってあそぶ時間がたりない
- 修学旅行の寝る時間が早すぎる。
- 話を聞いていなかった時ストレスがたまりました。
- くろいケシゴムがつかえない
- プロジェクター文字の色薄くてよく見えない！
- 先生がかってにグループを決める
- えんぴつしかつかえない(小学生)
- 先生によって教え方がちがう
- 朝、みんなにあいさつをしたいので早く行きました。早すぎて注意されました。
- 先生の教え方が分かりやすい
- 男女どちらかしか入れない部活がある。
- 先生が授業を忘れている時に「もう少したってから」や「●時までまとうよ」など止める人がいる。
- 好きなアイドルの曲が流れるとさけんだり、友達とアイコンタクトする人がいる。
- 学校の行事でこれいるか？みたいなやつがある。
- 学校の授業で調べごとをしていたときにサイトがブロックされる。
- 夏休みや冬休み山のように宿題がある。
- 学校のタブレットのせい能がわるい(ようこそが長い)
- 5分前行動と先生が授業に遅れてくる。
- 先生の態度にその生徒が好きか嫌いかがにじみ出ている





# 5.

## リハーサル まとめ発表練習

### (1) 概要

- ◆ワークショップ（リハーサル）では、第4回で行う区長や子どもの権利擁護の審議会の委員に向けた発表の練習とリハーサルを行いました。また、この日は子どもワークショップ（シーズン2）の第1回目が同時に開催され、参加者と交流をしました。

回	日時	場所	参加人数
リハーサル	令和6年3月24日(日) 9時30分～12時30分	杉並区役所中棟6階 第4会議室	9人

### ◆参加者内訳

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1世代	高2世代	高3世代	計
参加者	2	0	1	0	2	3	0	0	1	9

※学年は令和6年3月現在

- ◆講師・ファシリテーター：上智大学教授 新藤こすえ先生（こすこす）  
東京経済大学教授 野村武司先生（のむさん）

### ◆進行

- ① アイスブレイク
- ② 発表練習
- ③ リハーサル
- ④ 「なにそれな?! すごろく」交流会

### ◆レイアウト

会場を主に2つのスペースに分け、進行に合わせて使用しました。

子どもワークショップシーズン1の子どもたちは前方で発表を行い、シーズン2の

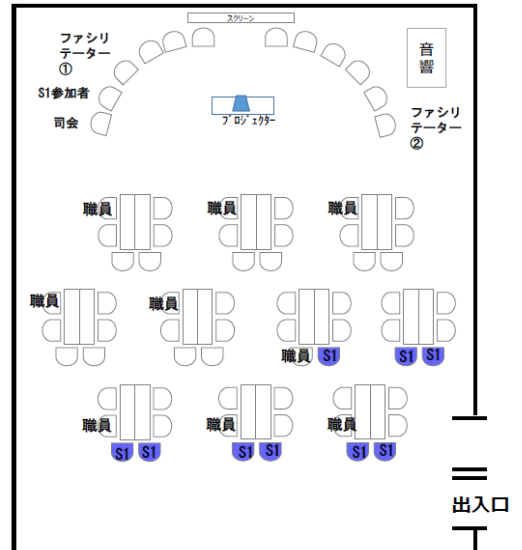
参加者はグループ席で見学をしました。各グループには職員が入りました。

その後、「なにそれな?! すごろく」交流会では、シーズン1の子どもたちも班の中に入り、一緒に遊びました。

各テーブルには、お菓子を用意し、自由に食べながら進めました。

### ◆班分け方法

④「なにそれな?! すごろく」交流会では、シーズン2参加者に遊び方の説明ができるように、2人1組となって、事前に決められていた班に入りました。

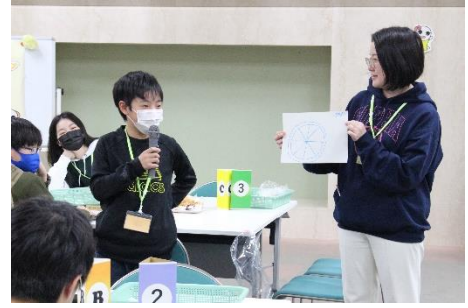


# 5. リハーサル

## (2) 当日の流れ

### ①アイスブレイク

- 新藤こずえ先生（こずこず）がファシリテーターとして進行をしました。アイスブレイクは、「テンションの上がる晩御飯」。食べられたら嬉しい晩御飯のメニューを絵に描き、みんなの前で発表しました。



テンションの上がる晩御飯はこれ！

### ②発表練習

- 本番にむけた練習として、本番と同じように半円に座り、ワークショップ第3回で作成したワークシートを使って、ワークショップに参加したきっかけや、やってきたこと、大切にしたい等を順番に話しました。
- 練習終了後、練習を見ていたこずこず、職員からアドバイスをもらい、発表の仕方や内容をブラッシュアップしていきました。



ワークシートを見ながら練習中

### ③リハーサル

- 次に、本番同様に司会者からのインタビュー形式で、リハーサルを行いました。リハーサルの際には、同日開催の子どもワークショップ（シーズン2）の参加者が見学に来ました。
- 班の中で、積み木自己紹介（前の人の名前を順番に言ってから自分の名前を言う）をして、みんなの名前を覚えながら自己紹介をしました。
- 40人近くの子どもの前で発表をしたため、最初は緊張した様子もありました。しかし、だんだんと緊張も解け、見学に来ていたシーズン2の子どもたちからも「シーズン1の活動をわかりやすく知ることができてよかった」、「参加者同士が仲良く話しているのが印象的だった」、「1人1人が違う意見を持っていて面白かった」という感想をもらうことができました。



シーズン2の参加者の前で発表！

### ④「なにそれな?! すごろく」交流会

- リハーサル終了後、子どもワークショップ（シーズン2）も含めた参加者の交流会として、みんなで「なにそれな?! すごろく」をしました。
- 各班に分かれ、「なにそれな?! すごろく」を初めて見るシーズン2の参加者に、子どもワークショップですごろくを作った子どもたちが説明をしながら一緒に遊びました。
- すごろくをすることで子どもの権利について学び、子どもワークショップ参加者同士の仲も深まりました。



発表の後は、「なにそれな?! すごろく」で遊びました

# 6. 第4回（発表）まとめ発表（区長・審議会委員）

## （1）概要

- ◆ 第4回では、区長や子どもの権利擁護に関する審議会委員に向けた発表を行いました。当日は、参加者の保護者も会場に見学に来ました。また、杉並区の報道番組である「すぎなみスタイル」の取材としてJ：COMのスタッフによる撮影も行われました。（下記参照）

回	日時	場所	参加人数
第4回	令和6年3月30日(土) 9時30分～12時30分	杉並区役所中棟6階 第4会議室	9人

## ◆ 参加者内訳

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1 世代	高2 世代	高3 世代	計
参加者	2	0	1	0	2	3	0	0	1	9

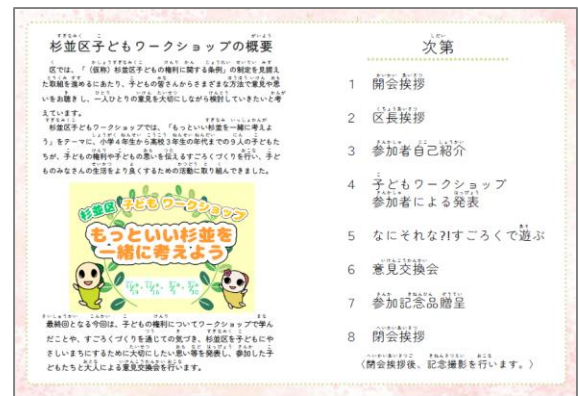
※学年は令和6年3月現在

- ◆ 子どもの権利擁護に関する審議会委員 5名

- ◆ 講師・ファシリテーター：上智大学教授 新藤こずえ先生（こずこず）

## ◆ 進行

- ① 発表準備
- ② 開会・区長挨拶
- ③ 発表
- ④ 「なにそれな?! すごろく」交流会
- ⑤ 意見交換
- ⑥ 参加記念品贈呈
- ⑦ 記念撮影
- ⑧ 閉会



## 令和6年5月1日号<すぎなみスタイル>

「もっといい杉並を一緒に考えよう子どもワークショップ」がYouTube杉並区公式チャンネルに動画が掲載されています！

<https://youtu.be/O0wc3SnCXXI?si=g453lt5R-7xqKxJb>

## 掲載先QRコード



# 6.

## 第4回（発表）まとめ発表（区長・審議会委員）

### ◆レイアウト

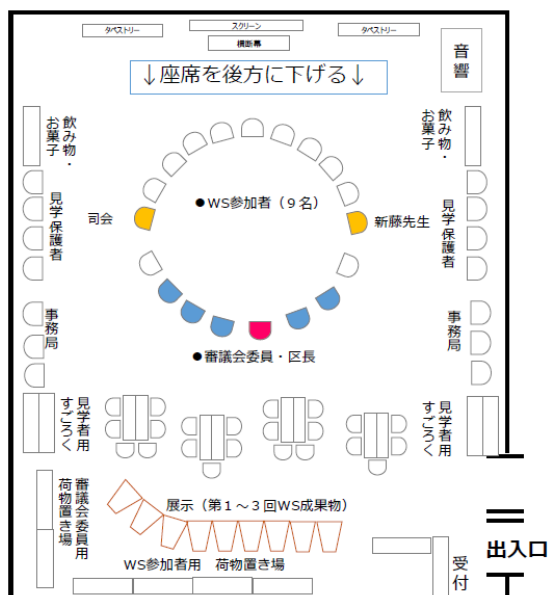
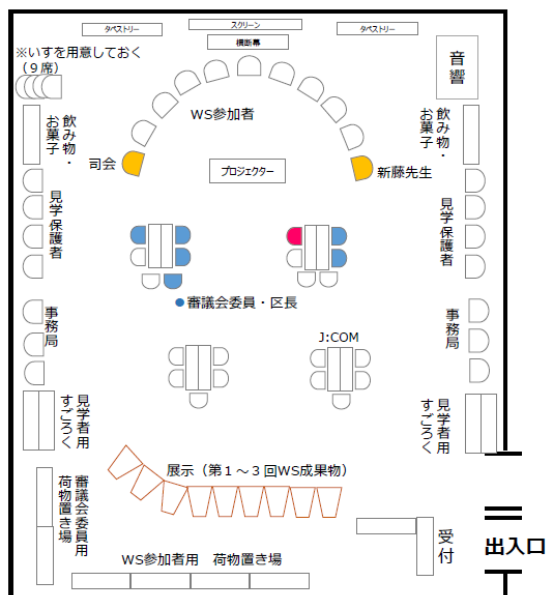
進行に合わせてレイアウトを変更しました。

発表の際には、前方の席に子どもたちが座り、グループ席で大人が話しを聞きました。

その後、子どもも班にわかれすごろくで遊びました。

休憩中に座席を移動し、最後に大きな車座となって意見交換を行いました。

各テーブルには、お菓子や「なにそれな?!すごろく」を用意しました。飲み物コーナーでは自由に飲み物をとれるようにしました。



### ◆班分け方法

④「なにそれな?!すごろく」交流会の際には、区長・審議会委員、区職員の大人と参加者で事前に決めていた4つの班にわかれしました。





# 6.

## 第4回（発表）まとめ発表（区長・審議会委員）

### （2）当日の流れ

#### ①発表準備

- アイスブレイクの後、開会までの間に後半部分を中心に最後の発表練習を行いました。

#### ②開会・区長挨拶

- 区長、子どもの権利擁護に関する審議会委員（6名）が参加し、発表がスタートしました。
- 区長から「きっしー」と呼んでくださいと挨拶がありました。
- 参加者全員で呼んでほしい名前以自己紹介をしました
- アイルランドへの出張のため、参加することができなかったのむさんからのビデオメッセージを上映しました。



挨拶をする岸本区長（きっしー）

#### ③発表

- こずこずより、子どもの意見表明の場には、大人と子どもが一緒に取り組むことが大切で、今日の発表は、対話の場であるというお話がありました。
- 発表では、これまで参加してきた過去3回のワークショップ振り返り、やってきたこと、大切にしたい思い等を司会者からのインタビュー形式で発表していきました。
- 「参加したきっかけ」、「すごろくづくりで工夫したこと」、「子どもの権利について学び、考えたこと」、「杉並区を子どもにやさしいまちにするためにもっとこうなったらいいと思うこと」などについて、区長や審議会委員の大人たちに向けてそれぞれの思いや考えを伝えました。

[参照→P.22・23]



「なにそれな?!すごろく」の由来は…



区長・審議会委員の方も熱心に発表を聞いていました

#### ④「なにそれな?!すごろく」交流会

- 発表の後は、班に分かれてワークショップ参加者と区長、審議会委員で「なにそれな?!すごろく」をして遊びました。すごろくをつかった子どもたちが率先して、審議会委員の大人たちヘルルなどの説明をしました。
- 会場では、「なにそれ?」「それな!」という声が飛び交い、みんなと一緒に盛り上がりました。



区長・審議会委員に「なにそれな?!すごろく」をお披露目

## 6. 第4回（発表）まとめ発表（区長・審議会委員）

### ⑤意見交換

- すぐろくで遊んだ後は、区長、審議会委員（4名）と子どもワークショップ参加者がサークル状に座り、意見交換を行いました。
- まずは、発表とすぐろくについて、区長、審議会委員の方から感想をもらいました。
- 審議会委員からワークショップの参加者へ質問をした後、子どもたちから、区長、審議会委員へ質問をしました。
- 最後に新藤先生（こずこず）からコメントをもらいました。  
[参照⇒P.24・25]



「子どもの権利をどのように広めていくか」という質問には様々なアイデアが出されました

### ⑥参加記念品贈呈

- 最後に区長からワークショップに参加した子どもたちへ参加記念品の贈呈を行いました。
- 参加証明書と参加記念品（杉並区内共通商品券1回につき、2,000円）が贈られ、区長と記念撮影をしました。



区長から参加記念品の贈呈

### ⑦記念撮影

- 子どもワークショップの参加者、区長、審議会委員で記念撮影を行いました。

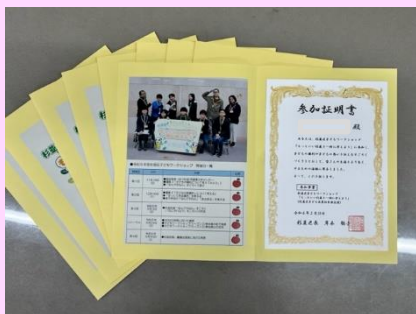


最後は全員で記念撮影！

### ⑧閉会

- 課長の挨拶があり、閉会となりました。
- リハーサルを含む全5回の子どもワークショップが終了しました！

### ★参加記念品



参加証明書の裏面には、「なにそれな?!すぐろく」の盤面とそれぞれが描いたマスのイラストを入れました



## (2) 発表内容（抜粋）

## ①ワークショップについて

Q：参加したきっかけは何ですか？

A：近所の児童館が何年か前に子どもたちにとっては、急に無くなることになり、子どもにとってどれだけ大事な場所かわかってもらえてないと感じた。その後でできた代替りの場所も遊べるスペースが小さかったり、不十分な部分があったので、そういう意見を大人のみなさんにも知ってもらいたいと思い参加しました。



Q：子どもの権利について学び、考えたことは何ですか？

A：子どもの居場所について考えました。例えば、杉並区の場合だと、中高生の居場所としてゆう杉並があります。ゆう杉並はワークショップの第1回で見学をし、とても施設が充実していて素晴らしく、そのような施設をもっと増やすべきだと思いました。最近では、ボール遊び禁止等、公園はほとんど機能していないのが現状です。今は阿佐谷周辺の子しか、子どもの居場所をが提供されていないので、（みんなが）通える距離で用意する必要があると思いました。



## ②すぐろくづくり

Q：「なにそれな?!」すぐろくという名前に決まった理由を教えてください。

A：「なにそれ〜」という疑問と、「それな!」の共感を得られる言葉を入れたいと話していた時に、両方を読んでいたら同じ文字が二つあることに気づきました。短縮しちゃえばいいんじゃないと思って、「なにそれな」と出てきた言葉が採用されました。



Q：すぐろくづくりでどんなところを工夫しましたか？

A：（マスに）川越の時の鐘を書きました。川越はいいまちでした。

Q：どんな「なにそれな?!カード」をつくりましたか？

A：「男の子が公園で遊んでいると女の子は遊ばせてもらえない」というカードをつくりました。なぜなら、男の子がボール遊びをしていると女の子が遊ばせてもらえないことと、女の子が先に遊んでいても男の子が来ると遊び場を占領してしまうことがあるからです。ボールの遊び場をもっと広くしてほしいと思いました。



## ③ワークショップに参加して

Q：ワークショップで印象に残ったことは何ですか？

A：小学生から高校生まで学年の違う子たちと一緒に1つのことについて考えることは、普段はないのではじめは緊張していました。参加してみるととても楽しくて、自分以外の人の意見を聞くことは新たな気づきをもらいました。

A：周りの人は自分とは違う意見を持っていたということと、子どもの権利は「生きる権利」「育つ権利」「参加する権利」「守られる権利」の4つがあったことです。小中学生、特に中学生が遊べる場所がゆう杉並にあることを覚えています。



## ④大切にしたい思い

Q：「杉並区を子どもにやさしいまちにするためにもっとこうなったらいい」と思うことはありますか？

A：タブレットを毎日学校から持ち帰ることになっていますが、とても重いです。低学年の子は特に大変だと思います。なので、タブレットを持ち帰る日は2日に1回か、1週間に1回でいいと思います。



Q：「杉並区を子どもにやさしいまちにするためには、どんなことが大切」だと思いますか？

A：学校にいけない子の居場所をつくったり、すでにあるところを広げていくことが大切だと思います。24時間365日とはいかなくてもよく開いている場所があったらいいです。

A：子どもたち同士での交流がもっと活発になったり、「ワークショップ」という形でなくても、堅い雰囲気ではなく、気軽に権利について話し合える場所があれば、いいのではないかと思います。





## （3）意見交換内容

## ①審議会委員からの質問

## ●大人から子どもたちへの質問

Q：「なにそれな?!すごろく」をどのように広めていくのがいいと思いますか？

A：「子どもには、学校の授業のなかで使用したり、いつでも遊べるようにしたり、児童館に設置したりして誰でも遊べるようにしておくといいと思います。大人には、子どもの権利を学ぶ大人版ワークショップを開催してその中で大人にも遊んでもらう。」

A：「人が集まる場所、学校や児童館などでたくさんの人に楽しみながらすごろくの存在を知ってもらいたいです。すごろくを楽しみながらも真剣に子どもたちの思いを知ってもらいたいです。」

A：「今の中高校生世代にはSNSを見ることの方が楽しいので、SNSを活用して権利を知ってもらったらいいと思います。広報すぎなみに、子どもの権利について学校でやったことなどを子どもにインタビューをして掲載したら身近に感じてもらえるのではないかと思います。」

Q：子どもの権利について、もっと多くの人に知ってもらうためにどんなことができると思いますか？

A：短い動画などをつくって載せたり、ゲーム感覚で学べるアプリなどを作れたらいいと思う。「なにそれなすごろく?!」も家族や友達とできたらいいと思いました。

A：電車の中や駅で忘れ物があった時には駅員さんに聞きます。（周りの人に親切にしておくこと）

Q：今後、ワークショップのような交流ができる場・機会が設けられるとしたら、『こんなふうにしてもらいたい』などのアイデアはありますか？

A：「座って話すだけではなく、体を動かして交流を深めるような機会があればいいなと思います」

A：「今回はすごろくをつくったけど、みんなの意見が書かれた一つの旗を作りたいです！」

A：「東京都に他にゆう杉みたいな子どもに関する施設にどんなものがあるのか知りたいので、見学に行ってみたいです！」

A：「参加者の中で、学校のことやお菓子のことなど共通の話題がたくさん見つかると思うので話しやすいです」

A：「条例がある他の自治体や今話し合っている市区町村に行って、意見交換をしたり、他の地域の人のお話を聞いてみたいです」



## ②子どもから区長、審議会委員への質問

Q：どのくらい権利を知っているのか聞いてみたいです。

A：子どもの権利条約には40条ほど挙げられていますが、簡単には、「子どもだからこそ大切にされたり、愛されたり、命も守られたりすること（受動的な権利）」と「自分の意見を言ったり、子ども自身が子どもにとって一番いいことを決められること（能動的な権利）」の2つがあります。大人の目線から「子どものために」を考えるのではなく、このワークショップなどのように子どもの権利などを大人が子どもたちと一緒に考えていくことが大切です。

Q：条例を作って実際にどんなところが生活の中で変わって子どもにとってよくなるのか？

A：自分が苦しいと思った時に、その権利をもっていることを知って救われる子どもたちが増えてほしい。自分が今のままで、ありのままでいいのだということを自分の中で認めて、幸せだと思う子どもたちが増えてほしいと思います。



# 6.

## 第4回（発表）まとめ発表（区長・審議会委員）

### （4）展示

会場には、これまでワークショップで取り組んできた内容を展示しました。

#### 子どもワークショップ〈第1回：令和5年11月19日〉

「生まれたときから、当たり前持っているもの」を  
子どもの権利の基本的な柱「生きる」「育つ」「参加する」「守られる」の4つに分類！  
ふせんを貼った模造紙を展示しました。



#### 子どもワークショップ〈第2回：令和5年12月16日〉

「ほっとできる場所」の絵を描いて発表！  
家や学校での「変だな？」「いいよね！」  
描いた絵や「変だな？」「いいよね！」をまとめた模造紙を展示しました。



#### 子どもワークショップ〈第3回：令和6年3月3日〉

完成！「なにそれな?! すごろく」  
みんながつくったすごろく盤の原本を展示しました。





## 事務局職員の振り返り

子どもたちがリラックスできるようなワークショップとするために、下記の点を工夫しました。子どもたちへの積極的な声かけや、職員も楽しむことを心がけました。回を重ねるごとに仲も深まり、第4回では、協力しながら息のあった発表を見せてくれました。

会場装飾・・・区役所内の会議室を、明るく楽しい雰囲気になるよう装飾をしました。

- ✓ 区の公式キャラクターなみすけたちのスタンドパネルやタペストリー
- ✓ おはながみで作ったカラフルな花の装飾
- ✓ 入口や廊下に吊り下げ式の風船飾りなど



お菓子と飲み物・・・子どもたちに希望を聞いて、グループワークの合間につまめるお菓子や飲み物を用意しました。リクエストでもらったお菓子や飲み物を中心に毎回少しずつ違うものを用意しました。お菓子がきっかけでグループでの会話はずみ、笑顔が見られました。



ニックネーム・・・職員や講師を含む参加者みんなが自分でつけたニックネームで呼び合うことで、大人も子どもも対等な関係で、親しみをこめて話しかけやすくなりました！ニックネームによって、距離がぐっと縮まったように感じました。

BGM・・・ワークショップ開始までの間、会場に流行りの音楽を流しました。賑やかな雰囲気の中、ワークショップを始められました。

カジュアルな服装・・・職員全員、スーツではなく、カジュアルな私服で参加しました。職員も自然とリラックスした雰囲気となり、子どもたちにも親しみやすく感じてもらえたようです。

杉並区子どもワークショップ  
「もっといい杉並を一緒に考えよう！」  
実施報告書



令和6年4月

杉並区 子ども家庭部子ども政策担当課  
東京都杉並区阿佐谷南1-15-1 TEL 03-3312-2111

